

郡市医師会長からの抱負

会長再任挨拶

千歳医師会

会長 さかもと たかし 坂本 孝志



2023年6月の千歳医師会定時総会において会長職に再任されました千歳循環器クリニックの坂本です。2025年6月までの2年間再度務めさせていただくこととなりました。今後のご指導ご鞭撻のほど引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、前任期の2年間はコロナウイルスパンデミックに翻弄された2年間でありましたが、会員諸先生方の協力のもと、発熱外来にての診療、コロナワクチン集団接種、千歳市との共同でのウイルス抗原検査と医師会一丸となってなんとか対処することができました。この場を借りましてご尽力いただきました関係方々に一言お礼申し上げます。一方、残念ながら、学術講演会や理事会をはじめとした、各種の医師会活動がパンデミックにより多大な制限を受けてしまいました。ことに対面での会員同士の交流が不十分であったと思われまます。

コロナウイルス感染は5類となった現在でも続いているところではありますが、今後は感染の動向をみながら活動制限を緩め会員間の交流を深めたいと思っております。また、救急医療に関して外科系救急輪番制の破綻が当面の問題となっており引き続き対策に取り組んでゆきます。

当医師会がある千歳市は全道的に人口減少傾向が続く中であって逆に人口が増加している地域です。医師会会員数も年々増加しており現在120名を超えるまでになりました。さらに先端半導体の国産化を目指す「ラピダス」が千歳市に工場を設置することが決まりこれからもさらなる人口増が見込まれています。

将来ご開業をお考えの先生がいらっしゃいましたら千歳も選択肢の一つにご考慮いただけると幸いです。また、千歳医師会は今年で設立60年を迎えることとなりました。11月には60周年記念式典を予定しております。この歴史ある医師会の会長を務められた諸先輩の名に恥じぬように任期を全うする所存であります。

苫小牧市医師会会長に就任して

苫小牧市医師会

会長 おき いちろう 沖 一郎



苫小牧市医師会は1947年に設立されてから76年を経過し、苫小牧市、白老町、むかわ町、厚真町、安平町の東胆振1市4町で構成されています。

苫小牧市は北海道第一の工業都市として、自動車関連産業、製紙関連産業、石油精製や天然ガスのエネルギー産業などが立地し、約人口16万7千人の道内4位の都市です。

白老町は製紙、漁業、畜産、温泉、さらに国立博物館ウポポイが注目を集めています。厚真町、安平町、むかわ町は競走馬生産や農業、漁業が産業の中心です。

前回の就任時より「新型コロナウイルス感染症」に対する対応が大半を占めておりましたが、今回の就任時での大きな動きとしては「苫小牧市夜間・休日急病センターの指定管理者運営」を苫小牧市医師会が苫小牧市より受託運営することになったこととあります。地域の急速な高齢化は、医師（開業医等）の年齢構成にも影響が及んでおり、今後の初期救急体制維持には、大幅な体制変更と効率的な運用が迫られておりました。一般社団法人苫小牧市医師会が行う「休日当番」と当会も出捐する一般財団法人ハスカッププラザが管理していた「苫小牧夜間・休日急病センター」の機能を統合し、貴重な医療資源を集約しながら、苫小牧市医師会が指定管理を受け運用を図るという方針に至ったことによるものです。

検討にあたっては、北海道外来医療計画、在宅医療連携推進調査、苫小牧市総合計画、東胆振定住自立圏共生ビジョン等々の資料を基に、苫小牧市医師会が定款に定めた事業を推進し、地域救急医療体制を維持するための視点から苫小牧市などとも協議・検討を行ってまいりました。夜間・休日における苫小牧市民及び周辺4町の急病に対して、良質な初期の救急医療体制を維持するとともに、苫小牧市民及び周辺4町の急病対処方法や支援の啓発事業を行ってまいりたいと考えております。また、初期救急医療に限らず昨今頻発する災害医療体制の充実強化についても喫緊の課題となっております。

指定管理移行後については、地域の災害拠点病院や北海道医師会における災害医療救護活動指針と連動した対策を強化し災害発生時に迅速な対応ができるよう、活動指針等の策定に着手していきたくと考えております。

最後に苫小牧市医師会は夜間・休日急病センターの他にも苫小牧看護専門学校・とまこまい医療介護連携センター事業などを運営しており、医療・福祉の充実を目指し今後も医師会活動の先頭に立ち対応していく所存です。